

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 補講【事業部の業績測定】

収録日：平成 25 年 10 月 15 日

【出題実績】

日商簿記 1 級

全経簿記上級 162 回

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	3 (営業費)	33	23	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
(「弱い」は「ない」を含みます)

各テキストでページ数を割いている論点ですが、出題実績は少ないです。

これまでの知識を応用すれば理解できる論点ですので、全経簿記上級の 162 回を解く事ができれば充分だと思います。

まずは言葉負けしないように！
常識的に考えれば大丈夫です。

全経 162 回の原価計算の問題を確認してみましょう。

事業部別に P / L つくる

管理可能個別固定費 → 事業部長が管理できる（事業部長に責任追及できる）固定費
事業部長の裁量で購入を決定した固定資産 etc（権限移譲されている前提）

管理不能固定費（事業部関係費） → 事業部長に責任追及できない固定費
TVCMの各事業部への按分額 etc

業績評価の考え方

投下資本収益率（ROI）：投資に対して、どれくらいの回収があるのかを%で

（ 残余利益（RI）：最低限回収すべき資本コストを利益額がいくら上回っているか？

100,000 円の株式投資で考えてみよう

銀行の金利が 3% としよう。銀行に預ければ 3,000 円の回収です。これを資本コストと考えます。

株式投資は 3% を上回る必要があります。

結果的に 1 年間で 5,000 円回収したとします。

$$ROI \text{ (ReturnOnInvestment)} = 5,000 / 100,000 = 5\%$$

$$RI \text{ (ResidualIncome)} = 5,000 - 100,000 \times 3\% = 2,000 \text{ 円}$$

では、第 162 回を解きながら解説していきましょう。（問 1～8 まで）